【優秀賞】

水でつなげよう！美しい自然を

気仙沼市立松岩中学校
三年　佐藤（さとう）　里桜（りお）

「海に行こう。」

釣り好きな父はそう言って、私達姉妹をよく海に連れて行った。私は海を眺めたり、波の音を聞くことが好きで、今では海に行くことが生活の一部となっている。

中学生になって、海岸のごみの多さが気になり、姉妹で拾い始めた。ペットボトルや空き缶、スーパーやコンビニのビニール袋。分別しながら回収する中で気になったのが流木だ。拾っても拾っても流木が岸に流れてくる。この二年間でどのくらい拾っただろうか。私の腕と同じくらいの太さの枝や中には五メートル以上の丸太まで。

なぜ、こんなに流木があるのだろう？私は木が育っている山と海をつないでいる川に原因があるのではと考え、調べてみることにした。

令和三年の夏、父と私達姉妹は岩手県一関市室根にやってきた。そこから、川沿いに歩き、海まで行こうと考えたのだ。目指すは津谷川が流れつく気仙沼市の小泉海岸だ。

水田や畑が広がる景色に川と集落が溶け込んでいる。水面には魚が泳ぎ、夏だというのにとんぼも飛びかっている。農作業をしているおじさんやおばさんに挨拶をすると、みんな挨拶を返してくれる。道路から見える山はきれいに植林されており、木が倒れ、山が削られている様子もない。護岸工事されている川はごみも落ちておらず、木の枝も流れていない。水はとても澄んでおり、ゆっくりと流れている。川のある景色はなんてすてきなんだろう。私はとてもすがすがしい気分になった。しかし、あの流木はいったいどこからきたのだろうか？

山の中の一本道を歩いていくと、だんだんと民家はなくなっていった。道路脇は手入れがされず、草が生い茂っている。峠を越え、津谷川の流れに沿って山を下っていくと、護岸工事がなされておらず、山が削られ、倒れた木々が川に落ちている箇所があった。雨が大量に降れば木だけでなく、土砂も川にたくさん流れ込むのではないかと心配した。きっと、海岸の流木はこのようなところから流れてきたのだと思った。

たどり着いた海岸の砂浜はどこからか流れ着いたであろう流木がたくさんあった。もちろん、ビニール袋や空き缶なども…。

今回、歩いてみて、海と山は川によってつながっていることが実感でき、海の環境を守るためには山や川も大切にしなければいけないと思った。また、多くの山や川はそこで暮らしている人達が倒れた木を運んだり、山が崩れたところに植林をしたり、河原の草を刈ることで守られているのだと考えた。そこで、私達は積極的に山や海、川に関わり合い、自然環境を守るために行動していくことが必要だと思った。ごみを捨てず、あれば拾うこと。山を保護し、木を育てること。そして、関心を持って海や山、川に行き、自然を楽しむと共にその魅力を多くの人に伝えること。私は自分が体験した川のある景色のすばらしさを少しずつでも多くの友達に伝えたいと思っている。

身の周りにある様々な自然を一つ一つの点とした時にその点を結んでいるのは水だと考える。その水を大切に扱うことが私達の自然環境を守ることにつながると思う。水と結び付く持続可能な社会づくりのための一つ一つの行動が、やがて大きな輪となることで、自然豊かな美しい地球になるのだと考える。だからこそ、山や海を大切にするためにも水を大切にし、守っていくことが重要だと…。これから私は海だけでなく川や山、そして、日頃使用している家庭の水も大切にしていこうと思う。夏の思い出となったあの川の景色と大好きな海を守っていくために…。